

経済日誌 2010年5月

注) 1DH(ディルハム)=約 10.5 円

I. モロッコ国内経済

1. 指標等

①2010年第一四半期の貿易収支¹

輸入・輸出とも増加に転じた。前年同期比で輸入額は13. 1%、輸出額は9. 3%の増加。カバー率(輸出額/輸入額)は前年同期の44. 6%から43. 1%へ減少した。

	2009年第一四半期	2010年第一四半期	推移
輸入額	61, 101	69, 110	13. 1%
輸出額	27, 276	29, 805	9. 3%
貿易収支	- 33, 825	- 39, 304	-16. 2%
カバー率 (輸出額/輸入額)	44. 6%	43. 1%	

(単位:100万DH)

(ア)輸入:原油の輸入額が大幅増加、自動車も増加に転じた。

	2009年第一四半期	2010年第一四半期	推移
原油	3, 508	5, 451	55. 4%
原油以外全体	57, 592	63, 658	10. 5%
食料品	6, 521	6, 764	3. 7%
小麦	1, 721	1, 438	-16. 4%
設備・機械類	16, 403	15, 721	-4. 2%
消費財	12, 418	13, 194	6. 2%
自動車	2, 221	2, 500	12. 6%

原油輸入総量は減少(119. 8万トン、前年同期129. 8万トン、前年同期比7. 7%減)したが、原油輸入価格が上昇(4549DH/トン、前年同期は2703DH/トン)し、原油輸入額が拡大した。

¹ モロッコ為替局ホームページ、www.oc.gov.ma

穀物輸入額の減少は、小麦輸入価格の低下が寄与している。2010年1月から3月までで81万トンを入力。前年同期は75万トン輸入したが、1トンの価格は前年同期2291DHから1771DHと低下した。

(イ)輸出: 燐鉱石・燐酸関連輸出額が増加、燐鉱石以外の輸出額は前年同期比とほぼ変わらず安定的に推移。

	2009年第一四半期	2010年第一四半期	推移
燐鉱石及びその派生品	4, 071	6, 438	58. 2%
燐鉱石以外	23, 205	23, 367	0. 7%

(単位: 100万DH)

- 燐鉱石の平均輸出価格は1トン676DH(前年同期1, 770DH)
- 燐酸の平均輸出価格は1トン4, 706DH(前年同期6, 422DH)
- 肥料の平均輸出価格は1トン3, 026DH(前年同期3, 340DH)

電気ケーブル、既製服が大幅減少。

	2009年第一四半期	2010年第一四半期	推移
電気ケーブル	1, 625	723	-55. 5%
トランジスター	799	992	24. 1%
食料品	6, 526	6, 070	-7. 0%
既製服	4, 956	3, 197	-35. 5%

②その他指標

観光収入および在外モロッコ人からの海外送金は前年同期比で増加に転じたが、海外からの直接投資は依然として減少傾向。コールセンター業務は相変わらず好調。

	2009年第一四半期	2010年第一四半期	推移
観光収入	9, 102	10, 259	12. 7%
在外モロッコ人からの海外送金	10, 555	11, 992	13. 6%
コールセンター業務収入	768	976	27. 1%
海外からの直接投資	9, 015	4, 304	-52. 3%
外貨準備高	189, 387 (2009年12月)	178, 392 (2010年3月)	-5. 8%

③2010年第一四半期失業率²

・失業率: 10. 0% (前年同期の9. 6%に比べて増加)

² エコノマップ(5月11日)

- ・都市部失業率は14.7%と前年同期の14.1%に比べて増加。
- ・農村部失業率は4.6%と前年同期の4.7%に比べてやや減少。

2. 建設・公共事業・インフラ等

①ウジダテクノポール建設の進捗状況³

ウジダテクノポールの第一区画の工事完了は2010年12月、稼働開始は2011年3月の予定。同テクノポールは次の5つの分野を中心として構成されている。(1)Clean Tech(太陽エネルギー・風力発電・エネルギー効率化)、(2)PME-PMI(地域のニーズに合わせた中小企業の活性化)、(3)Retail Park(地域の特性を生かした商業プラットフォーム)、(4)第三次産業(オフショアリング、観光)、(5)人材育成キャンパス(地域の特色を生かしたプロジェクトのための人材育成)。特にClean Techのプラットフォームには、太陽エネルギーや風力による発電設備の製造会社からの投資が期待される。同テクノポールのインフラ構築にかかる工費は4億2900万DH。国内外から50億DHの投資を見込む。同プロジェクトにはCDG、モロッコ空港公社、モロッコ商工業・新技術省などが参画している。

②マラケッシュエッサウィラ間幹線道路建設進捗状況⁴

6区画のうち、第1および第6区画が完成。豪雨により工事は遅滞したが、2010年末までに完成予定。全長113キロメートル。

3. 農業・漁業

①第5回国際農業見本市の開催(於:メクネス)⁵

4月28日から5月2日まで第5回国際農業見本市がメクネスで開催された。出展数は840で(うち30カ国から184が外国からの出展者)、入場者は80万人。外国からの主な出展国はスペイン、フランス、イギリス、ドイツとオーストラリアで各国の農産品のアピールを行うとともに、モロッコの農業分野における進出の可能性を探るものとなった。

アフヌッシュ農業・漁業大臣は昨年発表した地域別具体政策、農産加工品の高付加価値化・高効率化、及び、零細農家の収入確保による貧困削減を二つの軸とした農業計画を強調するとともに、官民契約ベースでの農業開発が開始された一年であったと振り返った。

今回はモロッコ燐鉱石公社(OCP)が農業投資基金である「農業のためのOCP技術革新基金: OCP Innovation Fund for Agriculture」を設立すると発表した。当初は2億DHが投入され、企業、アソシエーション、協同組合などの農業開発プロジェクトに融資する。

³ エコノマップ(5月14日)、経済日誌2009年6月参照。

⁴ エコノミスト(5月25日)

⁵ エコノマップ(4月29日、30日)、エコノミスト(5月4日)

また、平行してメクネスの「Agropolis」農産加工品開発ゾーンの商業化が発表された。同ゾーン開発は CDG-Developpement の子会社 MedZ が開発したもので第一区画開発に4億5000万DHを投資。面積は130ヘクタールでオリーブオイル、牛乳、肉類、穀物、野菜、果物などの加工業者向け。7～8年後には全体で450ヘクタールまで拡張し、50億DHの投資誘致を期待。

②第7回アガディール漁業見本市の開催(於:アガディール)⁶

5月27日～29日、第7回アガディール漁業見本市「Agadir Fish Morocco」がアガディール漁業会議所などの主催によって開催された。今年のはじめて南アフリカ、クロアチア、韓国、英国も出展するなど合計15カ国が参加した。

4. 産業・エネルギー

①Aïn Béni Matharの複合発電所の完成式⁷

12日、Aïn Béni Matharにおいて20MWの太陽熱発電と452MWの天然ガス発電(総発電キャパシティーは472MW)のコンバインドサイクル発電所(Le central thermo-solaire à cycle combine)の完成式がモハメッド6世国王臨席のもとで行われた。総工費は46億DH。太陽エネルギー発電を推進するモロッコにとって同発電所の完成は大きな第一歩。天然ガスはマグレブ・ヨーロッパ・ガスパイプライン(Gazoduc Maghreb-Europe)から供給される。

②太陽光エネルギーと海水淡水化パイロットプロジェクト(於: Tan Tan)⁸

EU諸国と地中海諸国における13の機関から構成されているコンソーシアムが太陽エネルギー発電による電力を利用した海水淡水化のプロジェクトを進めようとしているが、モロッコの Tan Tan がパイロットプロジェクトの場所として選択された。一日9000m³の淡水化が可能なユニットを建設する。ONEとONEPのファシ・フィフリ総裁はEUのサポートが必要と言及。

③モロッコ太陽エネルギー発電計画への関心表明⁹

5月24日が太陽エネルギー発電計画への関心表明の提出期限であったが、その中に仏系トップの Schneider Electric と Solairedirect が共同で関心を表明。Schneider Electric 社 Mohamed Karim Belcadi 社長は発電から接続までの総合技術を提供すると言及。また、スウェーデン系列のガス電力会社の子会社 Cofly Maroc 社も関心表明を提出。同社はもともと2001年のモロッコ進出以来「Minds 社」の名前で知られていたが、今年1月に社名を現在の Cofly Maroc 社に変更している。最

⁶ エコノミスト(5月28日)

⁷ オジドワイ・ル・マロック(5月14日)

⁸ オジドワイ・ル・マロック(5月20日)

⁹ エコノマッブ、エコノミスト(5月18日)、エコノミスト(5月19日)

近ではオフショアリングの省エネルギー計画に MedZ と契約を交わしている。同社総裁はモロッコにおける年間売上高は200万ユーロであるが5年で売上高を10倍にまで高めると言及。

④Akwa グループとSNIが液化天然ガスターミナル建設で提携¹⁰

Akwa グループとSNI(Société nationale d'investissement)が液化天然ガスターミナル建設で提携した。液化天然ガスがモロッコエネルギー消費に占める割合はわずか4%で、世界標準25%に比して低く、将来的には15~20%にまで高める構え。液化天然ガスターミナルの工期は5年と見られ生産開始は2015~2016年頃になる見通し。場所は Nador, Joef Lasfer, Kénitra の3カ所のうち1カ所に絞られる。場所によっても投資額は異なるが専門家によると約10億ユーロの投資は必要。

⑤Shellがモロッコを含むアフリカから撤退¹¹

ガソリン販売の大手 Shell がモロッコを含むアフリカ諸国20カ国から撤退を発表。Shellモロッコの買収に関しては、Akwa グループは興味を示さず、Oilibya が興味を示している。Shellの撤退によりモロッコガソリン販売競争に拍車がかかると見られている。現在のシェアは2010年3月の時点で Afriquia が37%、Shell が17%、Total が13%、Oilibya が8%、Petrobrás が8%、その他が17%となっている。

⑥自動車「Dacia」のシェア(2005~2009年)¹²

ルノーグループの「Dacia」が2005年に販売を開始して以来順調にシェアを伸ばしている。モロッコの Somaca 社がノックダウン生産。

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
販売台数	2717台	12737台	12636台	14958台	18106台
シェア	4. 2%	15. 1%	12. 2%	12. 3%	16. 5%

これまでに合計66,700台を販売し、今年には Duster Logan Prestige の販売を開始する予定で、販売累計は80,000台を超えると見られている。

⑦第7回オートエキスポの開催(於:カサブランカ)¹³

5月14日~23日まで、カサブランカにおいて、自動車販売のオートエキスポが開催された。販売台数は7000台と昨年の6000台を大きく上回った。入場者数は20万人。その中でも来場者数が多かったのは中国車「Lifan」(98,000DH、ユーロ4の基準)のスタンドだった。

¹⁰ ル・マタン、エコノミスト(5月31日)

¹¹ エコノミスト(5月20日)

¹² オジヨドゥイ・ル・マロック(5月26日)

¹³ エコノミスト(5月24日)

5. その他(金融など)

①モロッコ投資促進庁のスペイン事務所がオープン¹⁴

モロッコ投資促進庁(AMDI : Agence Marocaine de Développement des Investissements)は、初の海外事務所となるスペイン・マドリッド事務所を開設した。スペインからの投資を誘致するために、同事務所でモロッコ投資環境などについて情報を提供する。今年は同事務所の他、パリ、ミラノ、ロンドンにも事務所を開設する。

マドリッド事務所の住所、連絡先は Agencia Marroquí de Desarrollo de Inversiones, Oficina de representación – España, Paseo de la Castellana, 141, Planta 20 – Edificio Cuzco IV, 28046 Madrid, 電話:+34-917-893-441, FAX:+34-915-707-199。

②2009年交通事故数¹⁵

- ・事故数:69,348件(前年比3.73%増)
- ・死者数:3,946名(前年比2.42%減)
- ・重傷:12,164名(前年比3.99%増)
- ・軽傷:90,974名(前年比5.0%増)

③モロッコ在住の中国人¹⁶

内務省統計によると、現在登録されている在モロッコ中国人の数は1,452名。うち542名が技術者、336名が商業(卸、小売り)関係者、150名が企業幹部、102名が自由業、81名が会社従業員、その他学生14名、事務職員6名、教師3名、宗教関係者2名、無職216。(なお、在モロッコ中国大使館は、モロッコにおける中国人の数は約3,000名としている。)

地域別では、カサブランカ地域が528名と最も多く、続いてアルホセイマ地域(地中海沿岸)に266名(多くが進行中の高速道路建設関係者)、ラバト・サレ地域に245名、マラケシュ地域に143名、アガディール地域に86名。

モロッコは中国人の入国条件を厳格化しており、出発前においてはモロッコ入国のためのビザが認められるのは10件の申請に対し1件程度。中国からのモロッコへの輸入は2003年以降年平均28.8%で増大しており、拡大する貿易格差に対し、モロッコ当局による中国からの輸入品に対するダンピング審査を厳格化している。

¹⁴ エコノマップ(5月10日)

¹⁵ エコノミスト(5月18日)

¹⁶ エコノミスト(5月14日)

II. 諸外国等との関係

1. 外国政府との関係

① 第二回マグレブ企業関係者フォーラム開催(於:チュニス・チュニジア)¹⁷

5月10日～11日、第二回マグレブ企業関係者フォーラム(Forum des hommes d'affaires)がチュニスにおいて開催された。マグレブ5カ国(アルジェリア、リビア、チュニジア、モロッコ、モーリタニア)の経団連が開催しているもので、モロッコの代表は CGEM(モロッコ経団連)の Mohammed Horani 会長。各国の経団連で構成されているマグレブ経営者連合(Union maghrébine des employers:UME)の Ibrahim Hafedh El Omrani 会長は「マグレブ公共事業・インフラ会社」の設立を呼びかけ、鉄道、道路、海運などマグレブ地域のインフラ整備の必要性を訴えた。また、閉会に際して「チュニス宣言」が採択され、同地域のヒト・モノ・カネの流動自由化の必要性を確認した。来年は5月10日～11日、モロッコ、マラケッシュにて開催予定。

② 第4回中国・アラブ協力フォーラム(閣僚級会合)(於:中国・天津)¹⁸

5月13～14日、第4回中国・アラブ協力フォーラム(閣僚級会合)が中国・天津にて開催され、中国楊潔チ外交部長、リビア・Mousa Kousa 外務大臣、アラブ連盟 Amr Moussa 事務総長の共同議長で進められた。モロッコからはファシ・フィフリ外務・協力大臣が出席し、「中国は国際社会の重要国としてアラブ諸国の平和安全の確立に寄与し、発展途上国の開発に向けて援助した」と言及。中国・アラブ諸国間で幅広い分野で協力強化することで一致した。2010～2012年の行動計画が発表される予定。来年はチュニジア・チュニスで開催される。

③ 在モロッコ韓国大使館とモロッコ高等計画委員会が環境セミナーを共同開催(於:ラバト)¹⁹

環境を重視した発展をテーマにセミナーを開催。チョイ在モロッコ韓国大使は、エネルギー分野における経験など二国間で交換のすることの重要性を強調。ラハリミ・アラミ高等計画委員会委員長はモロッコも環境問題に対処するため種々の計画を推進していることを、2000MWの太陽エネルギー発電プロジェクトの例を挙げ説明した。

④ 第16回モロッコ・チュニジア合同委員会(於:チュニス)²⁰

5月6、7日にチュニスで開催された合同委員会にはエル・ファシ首相をはじめナシリ情報大臣、マアズーズ貿易大臣等のモロッコ政府関係者が出席し、ガンヌーシ チュニジア首相ら政府要人と会見。二国間の外交、経済、政治面での協力関係の発展を確認し、上水、再生可能エネルギー、環境等に関する12の協定に署名された。

¹⁷ エコノミスト(5月14日)

¹⁸ エコノマップ(5月17日)

¹⁹ エコノマップ(5月5日)

²⁰ エコノマップ(5月10日)

⑤マケドニア共和国首相の公式訪問(於:ラバト)²¹

マケドニア共和国グルエフスキ首相のモロッコ公式訪問を機に、同首相およびエル・ファシ首相の出席のもと、メメディ マケドニア外務大臣付国務長官とアヘルバッシュ外務協力大臣付国務長官が二国間二重課税廃止および投資促進に関する協定に調印した。

⑥シャミ商工業・新技術大臣トロントで投資セミナーに参加²²

民間企業および政府関係者が出席した投資セミナーにて、シャミ大臣は、政治の安定と経済の弾力性がモロッコの投資分野での切り札であると述べ、セミナーのマージンでも複数のカナダ政府要人と会見しモロッコへの投資を推奨した。

2. 外国企業との関係

①Maroc Exportがアフリカ諸国へ二回目の経済ミッションを派遣²³

2009年12月は、セネガル、マリ、コートジボワールへ、2010年5月16日から22日はカメルーン、赤道ギニア、ガボンへと経済ミッションを派遣。前回はゼネコン関連会社、薬品会社が多くを占めたが、今回はそれにモロッコ燐鉱石公社、その他鉱物関連会社など約100名(うち87名企業関係者)が参加、マアズーズ貿易大臣率いる大型経済ミッション。

中国が進出するアフリカの建設市場で、モロッコの企業がどこまで参画できるのか期待。

②ドイツ自動車部品企業による投資環境調査ミッション²⁴

自動車部品関係ドイツ企業であるFEPファルズグエレクトリック・ピルナ(Fahrzeugelektrik Pirna)、フルデンベルグ(Freudenberg & Co)、ラーゲンドルフ テキスタイル(Langendorf textil)、ウィルヘルム カーマン(Wilhelm Karmann)等の代表者など15名がモロッコの投資環境を調査。タンジェの矢崎総業、建築中のルノー工場、カサブランカ(アインスパー)のソマカ社工場を視察した。

③英米系Libra Capital社がモロッコに進出²⁵

モロッコ南部(西サハラ地域)の Orascom OUed Chbika と Pickalbatros Plage Blanche にヨーロッパからの退職者などを対象にした医療施設完備のレジダンス《Morocco Riviera》を、3期15年計画で建設する。収容キャパシティーは27万人で、敷地面積は200ヘクタール。初期投資額は1億7000万ユーロ。

²¹ エコノマップ(5月12日)

²² エコノマップ(5月12日)

²³ エコノミスト(5月14日)、エコノマップ(5月17日)

²⁴ エコノミスト(5月14日)

²⁵ エコノミスト(5月28日)

3. 経済協力

①フランス開発庁(AFD : L' Agence française de développement)によるモロッコ燐鉱石公社(OCP)への借款(於:パリ)²⁶

総額2億4000万ユーロの借款。現在燐鉱石は、鉱山のあるフリブガからジョルフ・ラスファー港まで鉄道で運ばれているが、この借款により、その間が235kmのパイプラインでつながれ、年間3800万トンの輸送が可能になる。

②世界銀行による借款

モロッコ政府行政改正支援プログラムの遂行のために1億USドル²⁷。中アトラス山脈のOum Er Rabia川水域の灌漑用水持続的利用の生産向上のため7000万USドル²⁸

③サウジアラビアのアブダラ国王がTGVプロジェクトに無償援助²⁹

投資総額200億DHのタンジールとカサブランカ間350kmを結ぶTGV(Train à Grand Vitesse 超特急)計画に対し、同国王より2億USドルが無償援助された。

²⁶ エコノマップ(5月6日)

²⁷ エコノマップ(5月7日)

¹²エコノマップ(5月31日)